

平成26年12月15日発行 鷹山宇一記念美術館友の会

〒039-2501青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94 七戸町立鷹山宇一記念美術館内

TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860 e-mail info@takayamamuseum.jp http://www.takayamamuseum.jp/

二十周年記念特集号



『少女 (部分)』(油彩、1956年、第41回二科展出品)



「少女」

晩婚にもかかわらず立て続けに三女の父となった宇一は、よく娘たちの仕草をデッサンしていた。

桂ゆき、斎藤義重ら、父の仲間たちも「美酒を飲む前のひと仕事」と云っては、画学生のように真剣なまなこで私たちの動きを追っていた。

半世紀以上も昔の話だ。

父の親朋、版画家斎藤清は「眼のバランスが至極いいんだ」と特に二女・ちどりを可愛がり誉めていたと言う。ちどりを抱きながら煙草を吸うのよ。酔うと煙草の灰がちどりに落ちてても気がつかなくてねーと、母が懐かしそうに語り始めた。斎藤さんは感心なことにもいつもデッサン帳を持ち歩いているのよー

猫を抱いた「少女」は、ちどり五歳の時の作品で、大人びた雰囲気はまだ先の娘である。

「ちどり」の原点はあの赤ん坊時代と、昭和の日本を代表する版画家は「ちどり」の顔を週刊誌の表紙とした。

会津柳津のご自宅に何った時「ウイちゃんの絵に触発されてね」と、私に「ちどり」の作品(右図)を手渡しながら「いつか、あの猫を抱いた作品と並ぶ時がくるといいな」と会津訛で静かに話された。

鷹山ひばり(青森県立美術館長)

会長挨拶

設立二十周年を迎えて

鷹山宇一記念美術館友の会
会長 盛田駿造

鷹山宇一記念美術館友の会は平成六年十一月十九日に設立、今年で二十周年を迎えました。

友の会は鷹山宇一記念美術館（以下美術館）のサポート役に徹しながらも独自の活動を行って参りました。

一つは、会員の勧誘であります。当初二〇三名で発足した会員は現在三四八名となっております。

二つ目は、美術館の催事にボランティアとして参加すること。

三つ目は、年度末の決算の結果生じた剰余金を積立て、美術館が鷹山先生の絵画を購入する時の資金の一部として寄付をして参りました。

四つ目は、会報（季刊）の発行です。

第一号を平成七年一月一六日発行以来本記念号をもって第七十七号になります。会員、美術館のご協力により、一度も休むことなく発行できました（第八、九号は合併号）。本第七十七号は、二十周年記念としての特集号です。友の会と美術館の二十年の歩みを紹介する年表やポスターによる二十年の展覧会を特集しておりますので、ご高覧を

頂きたいと存じます。

五つ目は、青森県内や仙台、盛岡等の美術館、博物館での展覧会への研修旅行を年二回ほど実施、又平成十年六月に「アントニオ・ガウディ展」が美術館で開催されたことを機に、第一回海外研修旅行「スペイン・パリ美術紀行」を実施以後、三、四年ごとに海外研修旅行を実施して参りました。又、年一回、国内の美術紀行（二泊三日程度）を実施しています。その他、美術講座、美術講演会、美術館コンサート、油絵講座などを実施して参りました。

友の会はあくまでも美術館をサポートするための友の会であり、今後も会員皆様と共に美術館の活動に協力して参りたいと存じます。

さて、二十周年を記念して美術館では、新しい鷹山宇一画集を刊行いたします。平成九年の画集刊行以後、美術館が収蔵した油彩画、新たに所在の判明した油彩画などを加え再編集した新画集を、友の会設立二十周年記念事業の一環として平成二十六年度の全会員にお届けすることと致しました。

会員一人一人が新画集の刊行ということをお友の会への加入勧誘のツールとして、友人、知人にお勧めして頂きたいと存じます。

会員の増加を図ることは友の会の存立を強固なものにすることであり、そしてそのことが直ちに美術館を応援することとなります。

そして、このことがこれからの三十年、四十周年を迎えた時、友の会が最も誇らしく、一段と輝く存在となることでしょう。

今日の二十周年は将来への歷程です。

鷹山宇一友の会 20周年記念特集号

目次

表紙	1
友の会 会長挨拶	2
お祝いの言葉	3～4
会員からのお祝いのお便り	5～6
ポスターで見る平成17年～26年迄の歩み	7～13
鷹山宇一記念美術館&友の会 略年譜	14～30
鷹山賞児童作品展を振り返って	31
鷹山宇一記念美術館・館報	32～36
続・第6回海外研修旅行記	37
国内研修旅行記	38
鷹山宇一記念美術館開館20周年記念彫像「請」	39
新画集刊行のお知らせ、新規会員入会お誘いのお願い等	40

「鷹山宇一記念美術館及び公益財団法人鷹山宇一記念美術振興会の事業活動に協力するとともに、美術に関する知識と教養の向上を図るために必要な事業を行い、もって美術文化の振興発展に寄与することを目的」（友の会規約第一条抜粋）として平成6年11月19日に設立した「鷹山宇一記念美術館友の会」が、創立20周年を迎えました。その記念事業の一環として、平成17年度から平成26年度までの友の会の活動を紹介する特集号として、会報第77号をお届けいたします。

（照井）

お祝いの言葉

鷹山宇一記念美術館友の会 設立二十周年記念を祝す

七戸町長 小又 勉

七戸町立鷹山宇一記念美術館の開設に伴い、平成六年十一月発足した鷹山宇一記念美術館友の会が基本理念「美術館在つての友の会」を標榜して「連理」の例えに相応しい活動を展開し、設立二十周年を迎えられたことは誠にめでたく、衷心より祝意を表する次第であります。

さて、貴会が年度内に数回発行する会報を横軸にして繙くと、美術館への物心両面の支援、会員交流による連携、自己啓発のための研修などに取り組んでいる様子を窺い知ることが出来ます。また、年度毎の会報を縦軸に据えると、大地に根を下ろす幼木が年輪を刻みながら成木に生長していくように、貴会の組織運営が充実・発展の一途を辿っていることも克明に読み取れます。

このことを周知するには、回顧録的な性格を有する会報をファイル化し閲覧に供することが大切であり、情報発信の手立てとしても意味があると思えます。

今後、鷹山宇一記念美術館友の会設立二十周年を機に、貴会は、より一層の活性化を目指すため、初心に立ち返り、相和して英知の結集を図り、新たな想いを具体的な形にすることや芸術文化の振興拠点である美術館との共存互恵を維持するため、密接不離な関係を末永く構築することを明示しています。これらの主な取組は時宜を得たものであり、「着眼大局 着手小局」の姿勢で臨んでくださることを期待しております。

最後に、貴会のみならずのご隆盛を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

鷹山宇一記念美術館友の会 設立二十周年記念に寄せて

公益財団法人鷹山宇一

記念美術振興会

理事長 福士孝衛

鷹山宇一記念美術館友の会が設立以来、組織拡充のため、独自性を発揮した取組を展開し、成果を積み上げながら今日に至っていることに対し、心から敬意を表する次第であります。

これまで、貴会と当美術館がともに「芸術文化の振興」という認識を共有し、親密な関係を保ちながら二十年

の節目を迎えることができましたことは、誠に嬉しく、感無量であります。

特に美術館開設当初から関わって来た私としては、様々な出来事が走馬灯のように去来する一方、全国的に美術館の運営が難しい傾向にあると言われているなかであつて、貴会の物心両面にわたる温かなご支援により県内外の皆様から信頼と期待をされる運営ができましたことは、望外の幸であり、心から感謝申し上げます。

今後、「温故知新」の如く、貴重な二十年の歩みを大切にされた創意ある取組を期待しておりますとともに、当美術館のよき支援者として引き続きお力添えを賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

終わりに、貴会のさらなる充実・発展を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

「一九九四年」

青森県立美術館

館長 鷹山ひばり

「美術館なんかそう簡単にできっこないんだ。もし実現できたら命より大切なランプもみんな持っていけばいい」と大口をたたいていた父が、設計図にランプ館があるのを見てから急に口数が少なくなってきました。

昼間来客があれば美術館の自慢を

し、夜になると「ランプまでは必要ないだろう」と未練がましく愚痴っていました。

母と娘三人は「何てメメしい、男らしくない」と、そんな父を見ながら台所でお茶を飲むのが日課となっていました。

娘の結婚式でさえ泣かなかつた父が、ランプの荷造りを終えたトラックが出た途端ポロポロ涙を流しました。

一九九四年八月一日「七戸町立鷹山宇一記念美術館」が開館し、初めて足を踏み入れた父は、想像以上の出来映えに感嘆の声をあげ壁に手を当てました。

「ランプ館」のスタンドグラスから差し込む光の美しさに、杖を持った手が震えその喜びの大きさを語っていました。

この日まで言葉にならない困難を乗り越え、夢を繋いで下さった方々に思いを馳せながら、鷹山宇一は「この美術館が夢を追う若人の一光になるよう」と祈りました。

成人に達したこの美術館の豊かな道のりが、漆黒の闇夜で光り輝く「北耀」であり続けて欲しいと切に願っております。

二〇星霜の歳月は、友の会の皆様方におかれましても言い尽くせぬ春秋の日々であつたことと拝察申し上げます。この通過点でその都度、お心を寄せて下さいました方々のお姿が脳裏をよぎり、感謝の言葉もございません。

会員の皆様方のご多幸をお祈りいたしながら、この慶節を祝したいと思えます。

新たなスタートに 願いを込めて

七戸町立鷹山宇一記念美術館
館長 船山義郎

貴会が苦節二十年の長きに亘り、脈々と堅実な歩みを続けられ、当美術館の想いを斟酌し、芸術文化の振興の一翼を担ってくださったことに對しまして心から敬意と感謝を申し上げますと存じます。

貴会は、県内外はもとより、海外の歴史ある美術館巡りを通して会員の知見を深める一方、当美術館に関する情報発信や貴重で高価な美術資料の提供等々、枚挙にいとまがない程のご助力をしてくださりました。誠に有り難く、心からお礼申し上げます。

このたび、設立二十周年記念を迎えるに当たって、改めて既発行の会報を通読してみますと、特色ある取組を展開して来られたことが一目瞭然であり、感嘆の一語に尽きると言っても過言ではありません。

このことは、貴会が他の追隨を許さない程の組織力を有している証であると思うからです。まさに、貴会は、「継続は力なり」を如実に物語っている組織であると確信しています。

これからも当美術館の良き理解者として有り続けてくださることを謹んでお願い申し上げます。

最後に、設立二十周年記念を節目とし、貴会のさらなる取組をご期待申し上げます、お祝いの言葉といたします。誠に改めてとうとうございます。

継続の力

鷹山宇一

記念美術館友の会

元会長 山本洋一

鷹山宇一記念美術館友の会の設立二十周年、まことにおめでとうござります。

また、友の会会報も本記念号をもって第七十七号を数えるとのことで、重ねてお祝い申し上げます。

友の会は、平成六年の十一月十九日に中央公民館（現在の南公民館）集會室で開かれた設立総会において発足し、会長には設立発起人代表でありました私が選任されました。私は、専ら事務方として美術館開設活動に携わってきたものであり、会長などという職見も経験もなく、当初は全く手探りの状態で、役員の皆様の手助けを得ながら事業活動に取り組みざるを得ませんでした。

また友の会会報第一号の発行は平成七年一月でした。

初代館長の小原恭平氏（故人）は、創刊にあたり次のようなメッセージを寄せられました。「美は永遠であり、友もまた永遠の絆をもって結ばれる。……」

鷹山美術館を通じて結ばれた会員相互の絆が、会報の発行、ボランティア活動、研修事業、絵画購入基金積立など、様々な活動を通じて二十年もの間保たれ、今日を迎えたことはまことに意義深いものであると思われま

す。故小原館長は、私に「不格好でもいからとにかく活動を続けて下さい。特に会報は、発行を続けていけば体制も整い評価されるようになります。頑張りなさい。」と助言して下さいました。今思い返すと、感無量のものがありました。さて、この二十年間を振り返ると、私にとつて特に印象に残る出来事が二つあります。

一つは平成十年に美術館で「アントニオ・ガウディ展 in 七戸」の開催が決定し、準備を進めていた頃のことです。たまたま戸館第一理事と上京する機会がありました。その際、「ガウディ展を開催するというのに母国であるスペイン大使館に連絡しないのは、うまくないのでは？」という話になり、無謀にもアポイントもとらずに、タクシーを拾い「スペイン大使館へ」と告げ、直行したことがありました。（運転手が「はあ？」と聞き返したことを覚えていま

す。）ところが、大使館ではこの招かれざる珍客に実に丁寧に対応していただき、ついには「では、開催式典には大使が伺えばよろしいのでしょうか？」とまで言うていただき、何の調整もしてこなかった私たちは大いに戸惑ったものでした。結局、大使は本国に帰国中ということ

で文化参事官のご出席をいただくこととなりましたが、「美術館」という言葉の持つ重さを痛感した出来事でありました。

また、平成十三年に「薬師寺玄奘三蔵院大唐西域壁画完成記念・平山郁夫展」の開催が決定していた時のことですが、この時もたまたま奈良の薬師寺を訪れる機会がありました。

薬師寺に納められる予定の平山先生の作品を展示する展覧会でもあり、ご挨拶だけでもという気持ちで社務所に展覧会の予定を伝え、友の会会長の名刺をお渡ししてきたことがありました。

そうしましたら、後日、当時の松久保管主様から直接美術館にお電話をいただき、展覧会を訪問し併せて講演会を開催したいとの、望外のご意向を頂戴いたしました。

会期中、美術館の展示室で平山先生の作品を前にお話をいただく機会を設け、その後柏葉館において講演会を開催することとなりました。（講演の様子は後日RABラジオで放送されました。）

これらを今思い返すと、まさに冷や汗ものの行いでした。

しかし、美術館という施設が維持される、友の会をはじめとするサポーターの活動が継続しているからこそ、こうしたご厚意をいただく基盤があると言ふこともできると思えます。

「継続が力となる」ことを感じた二十年であり、今後のさらなる継続のため、一会員としてこれからも微力を尽くしてまいります。

会員からのお祝いのお便り

友の会設立20周年という記念すべき年にあたり、会員の皆様方から心あたたまるお祝いのお便りを頂きましたのでご紹介致します。

友の会結成20周年

おめでとうございます。

青森市 鹿内秀雄

ひばり館長自らフロアに立ち目を輝かせ、額に汗をし職員・ボランティアの方々と笑顔で来館者を迎えていた姿を思い出します。

家内と良く「館長自らモギリする美術館は中々無いよね」「ひばり館長の汗いね」などと話したものです。

私に油絵を開眼させてくれたのが、今は亡き青森画廊主人の千葉さんでした。

ある日の事、主人に「油絵の本当の良さが分からない」と話したところ、奥から2枚の油絵を出してくれ展示してくれました。瞬間、その絵がスポットライトを浴びた。

鳥肌が立った！「これは何だ！」「夢か幻か？ 神秘と幻想の世界に「バラ」が浮遊していた。なんと美しい事か言葉も無い。もう一枚は光明を背に「白馬」が天空を駆けていた。

雲間からの光線・光の形が良い。白

馬の姿が良い。黄色が効いていた。絵には若さが漲っていて胸が熱くなった。主人に私の鳥肌を見せると眼鏡の奥でニヤリとした。
絵の見せ方が上手で、とても美意識の高い方でありました。

この日から宇一先生の「鷹」になり、宇一作品の蒐集を腹に決めたのであります。

見たこと無し。会ったこと無しの鷹山家に失礼とは思いつつも突然電話をし、奥様とひばりさんとお話が出来たのが大きかった。ここで「鷹山家」に惚れた。

鷹山家もこんな野暮な男に惚れられても困ると思うのだが……。

友の会のひとりとして

南部町 杉沢 深雪

開館当初、間もない頃は出張の途中で休憩する所。関心があっても急ぎ足では失礼と思い躊躇することがあつ

た。今日こそは……とドアを開けると、優しい笑顔で迎えられるほつとした気持ちは今も忘れない。天井にはステンドグラスが輝くモダンなランプの展示室があり、ランプのカラフルな色彩や模様も印象的だった。
早いものであれから二十年の歳月である。

私は今、南部町に住んでいる。美術館友の会に入会し十年あまりになる。ある時、作品展で親戚の名前を目にし、誘われたことが入会のきっかけである。今回原稿を依頼され、改めて「友の会」とは……また「事業内容は……」と見直すきっかけとなった。まず、年四回発行の友の会会報に驚く。内容もさることながら、記事にそう文章に仕上げることの大変さを実感。皆さん、モノクロからカラーに移行した会報に気づいているだろうか。やはりカラー版は馴染みややすく読みやすい。

多くの皆さんは県内外の美術館鑑賞旅行や海外美術研修に興味関心の多いことが分かる。ただ以前に比べてちかも参加人数が減ってきている。例えば美術鑑賞を主にしながらも、その地の観光やイベントなどの見学もあつていい。それが逆に新鮮で印象強く残ると思う。誰もが常に恵まれた条件で参加できるわけではないが、私も友の会のひとりとして、美術館のボランティア活動への協力や遊蝶記への参加など、出合いの少ない会員の方々にもめぐり合う機会となる場に積極的に出かけた。多くの方々とお話すること

が狭い自分の視野を広げてくれる喜びになると思うから。二十年の歩み……この重みと今後の夢に向かって、更に仲間を増やし自由に意見交換ができたら、会員同士の結びつきもより強まるだろう。会員のひとりとして小さな一歩であるが仲間たちと協力を惜しまず、更に発展できるように楽しみながら前進したい。

思い出に残る歳月

青森市 高橋美津子

美術館創立とともに歩んで来られた友の会の活動にも、二十年という歳月が流れた事を思い、皆様のご尽力に敬服いたしております。

友の会の一員ではありませんが、美術館の皆様や友の会の方々には、助けて頂く事ばかりでした。特に、春季二科展では二科青森支部展も併催させて頂きましたので、大変お世話になりました。

過ぎた日々を振り返る時、光陰矢の如しの感が強く、様々な事が思い出されます。その中で、企画展は、そのテーマにより独特な展示の仕方や、きめ細やかなスタッフの感性により、様々な作品との心に残る出合いがありました。

又、友の会の初めての海外旅行となりましたスペイン・パリの旅では、ガウディの発想の原点となったモンセラ

トやダリのアトリエのあるカダケス、様々な芸術家が悩み苦しみながら歩いたであろうパリの街、作品の数々に会う事が出来ました。

旅を通していろいろ深く考えさせられ、迷っていた自分の作品に新たな気持ちで向かうことが出来ました。そして、その後の「インナートリップ」のシリーズになりました。

人生の中でつらい事、楽しい事は誰にも訪れます。心が疲れてしまった時、現実を忘れさせて癒やしてくれるものを、音楽や美術や文学の中に見つける事があります。そのように芸術の世界は、ジャンルを超えて、人を感動させ、心を豊かにし、活力を与えてくれます。

鷹山宇一記念美術館は、これからも格調高く、静謐な雰囲気、訪れる人を包み癒し、夢を与えてくれるような場であつて欲しいと願わずにはいられません。

今度は、崇高な美しさと恥じらうような清らかさで佇む「請」の乙女に逢える事を楽しみに、又、足を運びたいと思います。

友の会設立

二〇周年に寄せて

野辺地町 伏津エコ

すごいですね！もう、美術館開館二〇周年、友の会設立二〇周年、お

めでどうございませう。

地方の美術館の中でもピカイチ！高い個性を発揮し地域に根付いた存在として愛される美術館の一つだと思います。思えば絵画グループ七彩会に誘っていただき油絵を始めると同時に鷹山宇一記念美術館友の会にも入会させていただいたのが一〇年余り前、私にとつて新しい世界が開け楽しみが広がった瞬間でした。絵の具のにおいを感じながら毎月美術館に通い、いろいろな体験をすることになりました。七戸町外の方たちも案外多く、あたたかい雰囲気の中でびのびと参加されているように思いました。学生さんと一緒に監視ボランティアも新鮮でした。初めての海外研修旅行はさすが美術館友の会主催だけあつて時間的にも余裕があり絵画を満喫できるものでした。旅慣れた先輩たちとの交流も楽しく、また日本を外から見る良い機会となりました。いろいろな意味でクセになること請け合いです。(今春のサンクトペテルブルク・パリ美術紀行は逃し残念でしたが、参加されたみなさんおめでとう！)今年は特に二〇周年ということで力が入った企画が多く、国内の研修も美術館夢の梯子です。新幹線を活かした宮城県美術館の「生誕二〇〇年ミレー展」は参加できず、個人で見ることになりましたが、デッサンと絵画を堪能しました。

鷹山宇一記念美術館が核となり、開館当初より支えて来られた友の有志の皆様は、努力に心より感謝いたし

ます。私も継続は力なり。微力ですが、お手伝い出来ればと思います。何が出来るかな？次の企画が待ち遠しいですね。ますますの発展をお祈り申し上げます。

継続と発展

八戸市 照井壽一

鷹山宇一記念美術館友の会設立二十周年、おめでとう御座います。心から、お祝い申し上げます。

友の会が設立された平成六年という年は、太平洋に面した東の八戸市から日本海に面した西津軽郡鰺ヶ沢町に初めて赴任した思い出深い年でもあり、あれから二十年たつたと思うと感慨深いものがあります。

手元の資料を見ると友の会会報第一号発行は、平成七年一月十五日、トップページは設立総会開催と『入館者一万人を突破』開館以来五ヶ月で達成』という記事が表紙を飾っています。

私が友の会会員として、初めて投稿し、掲載していただいたのは、平成十一年、鷹山宇一記念美術館開館五周年 & 友の会設立五周年の節目の年、『平山郁夫展』に一万四千人を超える入館者』平成六年開館以来の新記録』という見出しの記事が掲載された会報第十五号(六月十五日発行)でした。

友の会設立五周年記念・会報第十

六号は、九月十五日発行、十周年記念特集号は、平成十六年十二月十五日に発行されています。

私事になりますが、会報をお手伝いするようになったのは、平成二十一年六月二十一日発行の第五十五号からです。私にとつては、本年は会報に閉わつて五年目、最初の投稿以来十五年目という節目の年でもある訳です。

郷土出身画家の画業を顕彰するための美術館が開館するということを文化・芸術に縁遠い私が、知ったかぶりをしながら古里自慢していた鰺ヶ沢町時代を時折、思い出すことがあります。そんな私が二十周年という記念の年に会報に関わることができ、不思議に思い、時の流れを感じながら嬉しくも思っています。

創刊号発行以来、二十年ものあいだ続くことができたのは、継続的に会報発行に携わってきた担当者、紀行文、旅行記、エッセイ等を執筆、投稿して頂いた方々、歴代の美術館長は勿論のこと、館報(News & Report)を担当された美術館スタッフの熱き思い、その思いを心から支えて下さった会員各位そして鷹山宇一記念美術館を暖かく見守って下さっている地域の方々の理解と協力があればこそと思います。

二十年という時を超えて次の時代への一歩を踏み出したい、友の会創立時の原点に思いを馳せながら、鷹山宇一記念美術館の継続と発展のために微力ながら貢献していきたいと思っています。

特別展のポスターで見る平成17年度～26年度迄の歩み

平成17年度(2005)



審査委員特別賞受賞作品《仲好し》池田一郎

平成17年度(2005)



平成18年度(2006)



牧進「庭春朗景」(八曲一隻、部分)1996年

平成17年度(2005)



鏡木清方(かぶらぎ・きよかた)「金魚」

平成17年度(2005)



七戸町・天間林村合併記念特別企画展

新生七戸町誕生記念夏休み特別企画

第65回国際写真サロン展

第5回鷹山賞児童作品展

箱根・芦ノ湖成川美術館コレクション

平成19年度(2007)



牧 進(まき・すすむ)《眠れる美女》

平成19年度(2007)



あいおい損害保険株式会社 コレクション

平成18年度(2006)



審査員特別賞受賞作品(DIALOGUE)(対話) KLAUS STREHLKE

平成18年度(2006)



やなせたかしの世界展

平成18年度(2006)



第66回国際写真サロン展

津和野町立・安野光雅美術館コレクション

第6回鷹山児童作品展

平成20年度(2008)



青森放送創立55周年記念

平成19年度(2007)



第67回国際写真サロン展

右上: 審査員特別賞「悲しみ」竹尾康男
左下: 第5回女性写真公募展入選「餅つき踊り」小橋順子

平成19年度(2007)



第7回鷹山賞児童作品展

平成20年度(2008)



第68回国際写真サロン展

審査員特別賞受賞作品「怪」高木賢治

平成20年度(2008)



鷹山宇一誕生100周年記念展

平成20年度(2008)



第8回鷹山賞児童作品展

平成21年度(2009)

2009 / THE 69th International Photography Salon

第69回国際写真サロン展



入選「花街寸景」坂尾富司

2009年 10月17日(土)→11月8日(日)
毎週月曜日休館

道の駅しちのへ「七戸町文化村」七戸町立鷹山宇一記念美術館
〒038-2501 青森県上北郡七戸町字鷹山67-94 TEL:0176-62-2658 FAX:0176-62-5880

入館時間 10:00～17:30(休日は18:00)

入場料 大人 一般800円(中学生 300円・小学生 100円) 小学生以下は無料

主催 青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館

協賛 青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館

協賛 青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館

協賛 青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館

第69回国際写真サロン展

入選「花街寸景」坂尾富司

平成21年度(2009)

2009 11/15(日)→12/24(日)

第9回鷹山賞児童作品展

第9回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展

2009年 11月15日(日)→12月24日(日)

入場料 大人 一般800円(中学生 300円・小学生 100円) 小学生以下は無料

主催 青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館

協賛 青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館

協賛 青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館

協賛 青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館

第9回鷹山賞児童作品展

平成22年度(2010)

ピカソ、シャガールからピュウエ、カンシヨールまで

20世紀 フランス絵画の精髄

伝統とエッセンス

2010年 4月25日(土)→6月6日(日) 会期中無休

入場料 大人 一般1000円(中学生 500円・小学生 200円) 小学生以下は無料

主催 青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館

協賛 青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館

協賛 青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館

協賛 青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館

東北新幹線七戸十和田駅開業記念プレ特別展

マリー・ローランサン〈犬を抱く少女〉1921年

平成21年度(2009)

七戸町立鷹山宇一記念美術館開館15周年記念

Sakura桜♥富士山Fujiyama展

2009年4月26日(日)～6月14日(日) 会期中無休

入館時間 午前10時～午後5時30分(閉館は午後6時)

入場料 一般880円(中学生 400円・小学生 200円) 小学生以下は無料

主催 青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館

協賛 青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館

協賛 青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館

協賛 青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館

七戸町立鷹山宇一記念美術館開館15周年記念

平成21年度(2009)

戦没画家生息孫藤藤雄

「祈りの絵画」展

2009年 7月26日(日) → 9月6日(日) 会期中無休

入場料 大人 一般1000円(中学生 500円・小学生 200円) 小学生以下は無料

主催 青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館

協賛 青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館

協賛 青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館

協賛 青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館、青森県立美術館

七戸町立鷹山宇一記念美術館開館15周年記念

平成23年度(2011)

マテイス・ピカソ、ダリ、熊谷守一...
巨匠たちの素顔、色彩の宇宙

空間日動美術館コレクション
パレットと絵画展

2011年5月3日(火祝) - 6月26日(日) 会期中無休

入場料/午前10時~午後5時30分(観覧は午後6時)
入場料/一般500(600)円、学生400(320)円、高校生以下は無料

七戸町立鷹山宇一記念美術館

空間日動美術館コレクション

平成22年度(2010)

東北新幹線「七戸十和田駅」12月4日開業記念!

皇国法人松本美術館コレクション
上村家三代
～華麗なる美の系譜～

2010年7月17日(土) → 8月22日(日) 会期中無休

道の駅しものへ(七戸町文化村)
七戸町立鷹山宇一記念美術館

〒039-2504 青森県七戸町七戸字長町667-54
TEL.0176-62-5828 FAX.0176-62-5869

東北新幹線七戸十和田駅12月4日開業記念プレ特別展

平成23年度(2011)

平山郁夫展
次世代への伝言

2011年9月23日(金祝) - 10月30日(日) 会期中無休

七戸町立鷹山宇一記念美術館

平山郁夫展

「流砂浄土変」平山郁夫

平成23年度(2011)

2011 / 国際写真サロン展
第71回 国際写真サロン展

2011年11月3日(木祝) - 11月13日(日) 会期中は無休

七戸町立鷹山宇一記念美術館

第71回国際写真サロン展

審査員特別賞受賞作品 ㊤「COMMUNICATION」
ヴォング トリ キエツト、㊦「未来の乱舞」 沼尾専也

平成22年度(2010)

2010 / 国際写真サロン展
第70回 国際写真サロン展

2010年10月9日(土) - 11月7日(日)

七戸町立鷹山宇一記念美術館

第70回国際写真サロン展

平成22年度(2010)

鷹山賞児童作品展10周年記念
濱田進展

2010年11月14日(土) - 11月23日(日)

七戸町立鷹山宇一記念美術館

第10回鷹山賞児童作品展・10周年記念

平成24年度(2012)

メロディー

2012年7月15日(日)・9月17日(日)
開催時間 18:00-21:00

秋山庄太郎写真芸術の理念と軸路 ネガティブからポジティブへ

2011年3月11日の東日本の大震災と復興を促すための被災地支援活動を通して、秋山氏の活動が世に知られるようになったことが大きな功績です。秋山氏は、被災地支援活動を通して、被災者の生活の復興を支援し、被災地の活性化に貢献することを目的として活動しています。

秋山氏は、被災地の復興を支援するために、被災地の現状を写真で伝え、被災者の生活の様子を写真で伝え、被災地の活性化に貢献することを目的として活動しています。

秋山氏は、被災地の復興を支援するために、被災地の現状を写真で伝え、被災者の生活の様子を写真で伝え、被災地の活性化に貢献することを目的として活動しています。

秋山氏は、被災地の復興を支援するために、被災地の現状を写真で伝え、被災者の生活の様子を写真で伝え、被災地の活性化に貢献することを目的として活動しています。

秋山氏は、被災地の復興を支援するために、被災地の現状を写真で伝え、被災者の生活の様子を写真で伝え、被災地の活性化に貢献することを目的として活動しています。

平成23年度(2011)

第11回 鷹山賞児童作品展

第11回 地球環境世界発露画コンテスト優秀作品展

期間 7月15日(日)～9月17日(日)
18:00-21:00

「平和な未来を創ろう」をテーマに、子どもたちの想像力と創造力を発揮し、地球環境の大切さを訴える作品を募集します。

賞状授与式 7月15日(日) 18:00-21:00

展示期間 7月15日(日)～9月17日(日)

会場 七軒町立鷹山小学校 記念美術館

第11回鷹山賞児童作品展

平成24年度(2012)

「金山平三 十鴨居玲」展

二人の天才画家

「雪」を主題に、あなただけの「雪」を表現しよう

2012年4月28日(土)～6月24日(日)

入館時間 10:00-17:00 (閉館前18:00)

休館日 毎週月曜日 4月1日、4月30日休館

「金山平三 十鴨居玲」展

平成24年度(2012)

第12回 鷹山賞児童作品展

第12回 地球環境世界発露画コンテスト優秀作品展

2012年11月18日(日)・1月27日(日)

開催時間 18:00-21:00

賞状授与式 11月18日(日) 18:00-21:00

展示期間 11月18日(日)～1月27日(日)

会場 七軒町立鷹山小学校 記念美術館

第12回鷹山賞児童作品展

2012年4月28日(土)～6月24日(日)

入館時間 10:00-17:00 (閉館前18:00)

休館日 毎週月曜日 4月1日、4月30日休館

入館料 一般700(500)円 小学生300(240)円 小学生無料

主催 七軒町立鷹山小学校 記念美術館

㊤「雪深し」金山平三 ㊤「廃兵」鴨居玲

平成24年度(2012)

メロディー

秋山庄太郎写真芸術の理念と軸路
ネガティブからポジティブへ

2012年7月15日(日)・9月17日(日)

開催時間 18:00-21:00

賞状授与式 7月15日(日) 18:00-21:00

展示期間 7月15日(日)～9月17日(日)

会場 七軒町立鷹山小学校 記念美術館

東日本大震災復興支援

平成25年度(2013)

現代女流作家展

～命ある限り描き続ける 生きる証として～

箱根・芦ノ湖 成川美術館所蔵

2013年4月27日(土)・6月16日(日)

開催時間 18:00-21:00

賞状授与式 4月27日(土) 18:00-21:00

展示期間 4月27日(土)～6月16日(日)

会場 七軒町立鷹山小学校 記念美術館

箱根・芦ノ湖成川美術館所蔵

平成26年度(2014)



高橋由一(鮭図)1789~80 空間日動美術館コレクション

平成26年(2014)



第74回国際写真サロン展

平成26年度(2014)

第14回 鷹山賞児童作品展



第14回鷹山賞児童作品展

七戸町立鷹山宇一記念美術館 & 鷹山宇一記念美術館友の会編集 (画像提供: 鷹山宇一記念美術館)

平成25年度(2013)

開館20周年記念・日本近代洋画への旅



㊦審査員特別賞「ヒーロー」 石橋哲子、㊦第30回日本の自然写真展 青森県一賞「晩秋」 暹駅隆英

平成25年(2013)



第13回鷹山賞児童作品展

平成26年度(2014)



七戸町立鷹山宇一記念美術館開館20周年記念

「ごんぎつね」 黒井 健

鷹山宇一記念美術館&友の会 略年譜

記録と写真で見る平成17年度から26年度までの歩み

鷹山宇一記念美術館		鷹山宇一記念美術館友の会	
平成16年度(2004年度)		平成16年度(2004年度)	
		16.12.15	会報第37号発行 友の会創立10周年記念特集号
		17. 3.31	会報第38号発行

平成17年度(2005年度)		平成17年度(2005年度)	
17. 4. 1 } 5. 22	七戸町・天間林村合併記念特別企画展 福富太郎コレクション「近代美人画名作展」 	17. 6.18	平成17年度通常総会開催
7. 16 } 9. 4	新生七戸町誕生記念「手塚治虫のふしぎな 虫眼鏡展」 	6.18	美術講演会「創作人形の歴史とその鑑賞法」講師:現代人形作家 奈里多究星氏 鷹山宇一記念美術館工房 参加者 28名 
9. 10 } 9. 19	「第65回国際写真サロン展／第3回女性写真公募展」	6.15	会報第39号発行
9. 11	全日本写真連盟青森県本部主催「写真教室・モデル撮影会」開催	7.31	平成17年度第1回友の会国内研修旅行 岩手県立美術館「エルミターージュ美術館展」・岩山漆芸美術館「常設展」盛岡市 参加者 38名 
11. 20 } 18. 1. 29	「第5回鷹山賞児童作品展・第5回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展」	9.15	会報第40号発行
17.12.10	第6回「遊蝶記」の集い 	10.23	平成17年度第2回友の会国内研修旅行 宮城県美術館「大原美術館名画の宝石箱展」・仙台市博物館「円空さん～ほほえみの仏像展」仙台市 参加者 23名 
		12.15	会報第41号発行
		18. 3.31	会報第42号発行

平成18年度(2006年度)

18. 4.23 箱根・芦ノ湖 成川美術館コレクション ～花逍遙
 } ～ 四季折々の花たち展

6. 4



6. 3 「地方からの幸福づくり女性フォーラム」開催

6. 10 「第66回国際写真サロン展／第4回女性写真公募展」
 }

6. 18

6. 11 全日本写真連盟青森県本部主催「写真教室・モデル撮影会」開催

7. 30 津和野町立安野光雅美術館コレクション「安野光雅の世界展 ～旅する画家 in 七戸～ 絵本のなかの原画たち
 }
 10. 9

8. 1 安野光雅氏・森ミドリ氏「トーク&チェレスタコンサート」開催



安野光雅氏・森ミドリ氏が美術館いちようっこくらぶの子ども達と七戸町倉岡の大銀杏を見学

平成18年度(2006年度)

18. 5.28 平成18年度第1回友の会国内研修旅行 秋田市立千秋美術館「小磯良平展」・平野政吉美術館「近代の洋画と版画 フジタさん、いってらっしゃい。留守は我らが!展」秋田市 参加者 13名



6.10 平成18年度通常総会開催
 友の会 会 長 山本洋一氏退任
 友の会 新会長 盛田駿造氏選任



美術講演会「シャガール・アレコについて」
 講師:青森県立美術館工藤学芸員

6.15 会報第43号発行

8.26 平成18年度第2回友の会国内研修旅行 青森県立美術館開館記念展「シャガール『アレコ』とアメリカ亡命時代」・三内丸山遺跡「時遊館」見学 青森市 参加者 32名



三内丸山遺跡・六本柱の前で記念写真

18. 9. 27 開館から入館者30万人達成



30万人目の記念入館者(中央)と記念写真

11.19 「第6回鷹山賞児童作品展・第6回地球環境世界
児童画コンテスト優秀作品展」

19. 1.28



11.18 第6回鷹山賞入賞者授賞式開催

18.12.10 第7回「遊蝶記」の集い

19. 2. 3 節分豆まき



幸運を祈り北北西に向かい恵方巻きを頂きました。

18. 8.30 平成18年度第3回友の会国内研修旅行 青森
県立美術館開館記念展「シャガール『アレコ』とア
メリカ亡命時代」・三内丸山遺跡「時遊館」見学
青森市 参加者 23名

* 青森県立美術館開館記念展、申込み多数のため2
回実施



青森県立美術館アプローチ看板前で記念写真

9.15 会報第44号発行

9.27 平成18年度第4回友の会国内研修旅行 青森
県立武道館「第37回日展弘前展」・吉井酒造煉
瓦倉庫「奈良美智展」 弘前市 参加者 37名



「第37回日展」弘前展会場・県立武道館にて

12.15 会報第45号発行

19. 3.15 会報第46号発行

平成19年度(2007年度)

19. 4. 22 「万葉の花・恋の花 アートになった椿展」～あい
おい損害保険株式会社コレクション～

6. 10



19. 4. 21 開催式・テープカット風景

5. 20 茶道裏千家七戸会によるお呈茶



「アートになった椿展」ご来館のお客様へ茶道裏千家七戸会によるお呈茶のサービス風景

7. 15 元気100倍！やなせたかしの世界展 ～やさしい
ライオンからアンパンマンまで～愛と勇気とやさし
さあふれる原画たち

9. 2



11. 3 「第67回国際写真サロン展／第5回女性写真公
募展」

11.18

11. 24 「第7回鷹山賞児童作品展・第7回地球環境世界
児童画コンテスト優秀作品展」

}

20.1.27

平成19年度(2007年度)

19. 4. 15 平成19年度第1回友の会国内研修旅行 岩手
県立美術館「NHK日曜美術館30年展」
盛岡市 参加者 34名



岩手県立美術館にて

6. 2 第3回友の会海外研修旅行 「南仏・パリ印象派
を訪ねて」参加者 34名

6. 9



ニース プロムナード・デザングレにて

6. 16 平成19年度通常総会開催

6. 15 会報第47号発行



9. 15 会報第48号発行

10.16 財団法人鷹山宇一記念財団へ助成金

11.14 平成19年度第2回友の会国内研修旅行 青森
県立郷土館「山下 清展」・棟方志功記念館「棟方
志功展」青森市 参加者 29名



棟方志功記念館庭園にて

<p>19.12.1 鷹山ひばり館長「第60回東奥賞」受賞</p>			
<p>12. 9 第8回「遊蝶記」の集い</p>		<p>19.12.15</p>	<p>会報第49号発行</p>
<p>20.2. 3 鷹山館長東奥賞受賞祝賀会</p>	 <p>七戸町盛田旅館で祝賀会が開催されました</p>	<p>20. 3. 15</p>	<p>会報第50号発行</p>

平成20年度(2008年度)		平成20年度(2008年度)	
<p>20. 4. 24 鷹山宇一生誕100周年記念事業実行委員会によせられた善意の募金100万円を七戸町が計画している鷹山絵画購入資金の一部として寄付。</p>	 <p>七戸町福士孝衛町長(右)へ寄付金を手渡す 実行委員会・青山浄晃会長(七戸町役場町長室)</p>	<p>20. 6. 14</p>	<p>平成20年度通常総会開催 鷹山画伯の絵画購入資金の一部として財団法人鷹山宇一記念美術振興会に100万円を指定寄付</p> 
<p>4. 27 鷹山宇一生誕100周年記念展「宇一が愛した く 西洋ランプ/故郷(しちのへ)に帰った作品たち」 8. 31 ~今、いつときの、預かりもの~</p>	 <p>4. 26 開催式・テープカット風景</p>	<p>6. 15</p>	 <p>会報第51号発行</p>

20. 6. 16

共催 美術講演会「絵画よもやま話」講師 永井画廊代表取締役 永井龍之介 参加者 80名



8. 1 美術館開館記念日 鷹山宇一生誕100周年記念事業 七戸町購入鷹山宇一作品「山のかなたに」「夜明けの静物」公開



お披露目式にて挨拶する福士孝衛町長



山のかなたに



夜明けの静物

9. 13 青森放送創立55周年記念 ～ヤマタネ所蔵作品による～「日本画名品展」
10. 13



10.25 「第68回国際写真サロン展」/
第6回女性写真公募展」
11. 9

10.26 全日本写真連盟青森県本部主催「写真教室・モデル撮影会」開催

20. 6. 16

共催 美術講演会「絵画よもやま話」講師 永井画廊代表取締役 永井龍之介 参加者 80名



講演中の永井龍之介氏

9. 15 会報第52号発行

9. 15 平成20年度第1回友の会国内研修旅行 岩手県立美術館「アメデオ・モディリアーニ展」盛岡市 参加者 35名







岩手県立美術館ホールにて

10. 26 平成20年度第2回友の会国内研修旅行 青森県立郷土館「ジュディオング倩玉展」青森市 参加者 35名



青森県立郷土館ホールで記念写真

<p>20.11.15</p>	<p>第8回鷹山賞児童作品展授賞式風景</p> 	<p>20.11.10</p>	<p>財団法人鷹山宇一記念美術振興会に助成金</p>
<p>20.11.16 21.1.25</p>	<p>「第8回鷹山賞児童作品展・第8回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展」</p>		
<p>20.12.10</p>	<p>第9回「遊蝶記」の集い</p>  <p>鷹山宇一先生100回目のお誕生日の集い</p>	<p>12.10</p>	<p>鷹山宇一先生誕生100年記念「鷹山宇一の世界～花と蝶 そしてランプ～」(七戸町制作ビデオをDVD化)</p> 
<p>20.12.31</p>	<p>鷹山ひばり氏 美術館長辞任(青森県立美術館長就任) 館長代行 戸館昭吉氏</p>	<p>12.15 21.3.15</p>	<p>会報第53号発行(鷹山宇一先生誕生100周年記念号、鷹山宇一先生誕生100周年記念DVD同封) 会報第54号発行</p>

平成21年度(2009年度)		平成21年度(2009年度)	
<p>21.4.1 4.26 6.14</p>	<p>戸館昭吉氏 美術館長就任</p> <p>開館15周年記念 箱根・芦ノ湖成川美術館コレクション～日本のころ～「Sakura 桜・富士山 Fujiyama展」</p>  <p>4.25 開催式テープカット</p>	<p>21.4.29</p>	<p>平成21年度第1回友の会国内研修旅行 青森県立美術館「<<ウィーン美術史美術館所蔵『静物画の秘密展』>> 青森市 参加者 49名</p>  <p>鷹山ひばり青森県立美術館長を囲んで</p>



21. 6. 20 開館15周年記念 ミュージアム・コレクション展
 鷹山宇一と七戸ゆかりの画家たち展－鳥谷幡山・
 平野四郎・上泉華陽－
 7. 20

7. 26 開館15周年記念 戦没画学生慰霊美術館「無言
 館(むごんかん)」収蔵作品による「祈りの絵画」展
 9. 6



7. 25 開催式・テープカット風景

8.23 窪島誠一郎氏、鷹山ひばり氏対談会「絵のこと、
 戦争のこと」開催



21. 5.21 第4回友の会海外研修旅行 充実の台湾4日間
 5.24 「故宮博物館と美食の旅」参加者 24名



台湾・故宮博物院前

6.2 平成21年度通常総会開催

6.2 美術講演会開催「棟方志功と詩歌」講師 財
 団法人棟方志功記念館館長補佐 武田公平氏



6.21 会報第55号発行

7.19 平成21年度第2回友の会国内研修旅行 岩手
 県立美術館《国立トレチャコフ美術館展「忘れえ
 ぬロシア」》盛岡市 参加者 33名



岩手県立美術館にて

9.15 会報第56号発行





<p>21.10.17 } 11. 8</p> <p>11.15 } 22. 1. 24</p> <p>21.12.10</p>	<p>「第69回国際写真サロン展」</p> <p>「第9回鷹山賞児童作品展・第9回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展」</p> <p>第10回「遊蝶記」の集い</p> 	<p>21.10.25</p> <p>10.27</p> <p>12.15</p> <p>22. 3.20</p>	<p>平成21年度第3回友の会国内研修旅行 青森県立美術館 吉村作治の《新発見！ エジプト展》 青森市 参加者 21名</p>  <p>青森県立美術館にて</p> <p>財団法人鷹山宇一美術振興会に平成24年度友の会助成金</p> <p>会報第57号発行</p> <p>会報第58号発行</p>
--	---	---	---


平成22年度(2010年度)		平成22年度(2010年度)	
<p>22. 4. 24</p> <p>4. 25 } 6. 6</p>	<p>山形美術館・加藤千明館長「ギャラリートーク」開催／「秋田蓮シャンソンの夕べ」開催</p>  <p>東北新幹線「七戸・十和田駅」開業記念プレ特別展山形美術館 服部コレクション ～伝統とエスプリ～ 20世紀フランス絵画の精髓</p>  <p>4. 24 開催式・テープカット風景</p>	<p>22. 6. 6</p>	<p>平成22年度第1回友の会国内研修旅行 青森県立美術館「古代ローマ帝国の遺産展」・青森県立郷土館「サントリー美術館名品展」 青森市 参加者 33名</p>  <p>青森県立美術館前にて</p>

<p>22.5.15 く 5.16</p>	<p>第1回「まちかど美術館開催」 </p>	<p>22.6.12</p>	<p>平成22年度通常総会開催 </p>
<p>7.16 く 7.17</p>	<p>松伯美術館学芸員・鬼頭美奈子 「ギャラリートーク」開催</p>		<p>通常総会風景</p>
<p>7.17 く 8.22</p>	<p>財団法人松伯美術館コレクション～華麗なる美の系譜～「上村家三代／松園・松篁・淳之展」 </p>	<p>6.15</p>	<p>会報第59号発行</p>
<p>10.9 く 11.7</p>	<p>「第70回国際写真サロン展」</p>		<p>9.15</p>
<p>11.14 く 23.1.23</p>	<p>「第10回鷹山賞児童作品展・第10回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展」 鷹山賞児童作品展10周年記念「濱田進展／鷹山賞10年のあゆみ展」 </p>	<p>11.26</p>	<p>財団法人鷹山宇一記念美術振興会に助成金</p>
	<p>11.13 授賞式・テープカット </p> <p>濱田進先生ご夫妻</p>		
<p>22.12.9 12.10</p>	<p>開館から入館者40万人達成 第11回「遊蝶記」の集い</p>	<p>12.15</p>	<p>会報第61号発行</p>

23. 1. 17	福士孝衛氏 財団法人鷹山宇一記念美術振興会理事長就任		
3. 11	日本時間14時46分18秒、東日本大震災発生	23. 3. 31	会報第62号発行(23年3月11日に発生した東日本大震災の影響で4月13日発送)
3. 15	財団法人鷹山宇一記念美術振興会 新理事長福士孝衛氏就任		

平成23年度(2011年度)		平成23年度(2011年度)	
23. 5. 3 6. 26	笠間日動美術館コレクション「マティス、ピカソ、ダリ・・・巨匠たちの素顔、色彩の宇宙～パレットと絵画～展」		
5. 14	日動画廊社長ご夫妻、講演会「パレットと日動画廊」開催 	23. 6.11	平成23年度通常総会開催 総会終了後、盛田会長より鷹山宇一記念美術館戸館昭吉館長に鷹山宇一絵画作品購入資金の一部として100万円の目録を贈呈 
6. 14	鷹山宇一作品「静物」「遊蝶・花」公開、5月28日財団理事会、評議員会にて可決、友の会助成受け6月14日購入  新規購入作品 「静物」「遊蝶・花」		平成23年度通常総会終了後の贈呈式風景 6.15 会報第63号発行 7.24 平成23年度第1回友の会国内研修旅行 青森県立美術館開館5周年記念「光を描く 印象派展」青森市 参加者 40名 
			鷹山ひばり青森県立美術館長を囲んで

<p>23. 9. 23 } 10. 30</p>	<p>「平山郁夫展」～次世代への伝言(メッセージ)～</p> 	<p>23. 9.15</p>	<p>会報第64号発行</p>
<p>11. 3 } 11. 13</p>	<p>「第71回国際写真サロン展」</p>		
<p>11. 5 } 11. 6</p>	<p>「第2回まちかど美術館」</p>		
<p>11. 20 } 24. 1. 22</p>	<p>「第11回鷹山賞児童作品展・第11回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展」</p>  <p>11. 19 第11回鷹山賞受賞式風景</p> <p>併催 ～漫画で描く日本の祭り～「平野勲展」</p> 	<p>11.2</p>	<p>平成23年度第2回国内研修旅行 宮城県立美術館「フェルメールからのラブレター展」 仙台市 参加者 11名</p>  <p>宮城県立美術館前で記念写真</p>
<p>23.12. 1 12.10</p>	<p>公益財団法人鷹山宇一記念美術振興会 認可</p> <p>第12回「遊蝶記」の集い</p>	<p>12. 7 12.15</p>	<p>公益財団法人鷹山宇一記念美術振興会に助成金</p> <p>会報第65号発行</p>
		<p>24. 3.25</p>	<p>会報第66号発行</p>

平成24年度(2012年度)		平成24年度(2012年度)	
<p>24. 4. 1</p>	<p>船山義郎氏 美術館長就任</p>	<p>24. 4.20 } 4.28</p>	<p>第5回海外研修旅行 オランダ・ベルギー・パリ美術紀行「ゴッホ・フェルメール・レンブラントを訪ねて」参加者 27名</p>  <p>クレラー・ミュラー美術館前にて</p>

24.4. 28 「金山平三 + 鴨居玲展 = 二人の天才画家」～描く、ということ。生きる、ということ～
 }
 6. 24



7. 14 秋山庄太郎写真芸術館館長・上野正人氏「ギャラリートーク」開催 / ピアニスト・中村由利子氏「ピアノコンサート」開催
 }
 7. 15

7.15 東日本大震災復興支援 「メロディー」秋山庄太郎写真芸術の理念と軌跡 ネガティブからポジティブ
 }
 9. 17



秋山庄太郎写真芸術館・上野館長による
 ギャラリートーク

8. 25 「写真教室&モデル撮影会」開催 講師 全日本写真連盟関東本部委員長・国際写真サロン審査委員・伊藤康雄氏



9.15 美術館中庭でのモデル撮影会

8. 25 併催 「第72回国際写真サロン展」
 }
 9. 9



ブリュッセル 世界遺産グランプラスにて

24. 6. 9 平成24年度通常総会開催



平成24年度通常総会風景

6.15 会報第67号発行

7.29 平成24年度第1回友の会研修旅行「中尊寺 秘仏 一字金輪佛頂尊座像御開帳展」岩手県平泉町 中尊寺・平泉文化センター 参加者 20名



9.15 会報第68号発行

24. 9. 6 第1回「灯籠NIGHT」

9. 8

9. 7 第3回「まちかど美術館」

9. 9



24.11. 18 第12回鷹山賞児童作品展・第12回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展

25. 1. 27



24.12. 9 第13回「遊蝶記」の集い



24.10.17 平成24年度第2回友の会研修旅行 「せとうち美術館巡り～大原美術館(岡山県)・平山郁夫美術館(広島県)・大塚国際美術館(徳島県)」 参加者 22名



大原美術館(岡山県)



平山助成館長より説明を受ける会員

11.11 平成24年度第3回友の会研修旅行 青森県立美術館「奈良美智展一君や僕にちょっと似ている」&棟方志功記念館「棟方の祈り」 青森市参加者 22名







鷹山ひばり青森県立美術館長を囲んで

11.28 公益財団法人鷹山宇一記念美術振興会に友の会助成金

12.15 会報第69号発行

25. 3.30 会報第70号発行

平成25年度(2013年度)		平成25年度(2013年度)	
25. 4. 27 }	箱根・芦ノ湖 成川美術館所蔵「現代女流展」～命ある限り描き続ける 生きる証として～	25. 6. 2	平成25年度第1回国内研修旅行 岩手県立美術館「若沖がきてくれました、プライスコレクション江戸絵画の美と生命」盛岡市 参加者 27名
6. 16			
			岩手県立美術館から岩手山を望んで
5. 2	名誉館長 鷹山増子氏ご逝去	6. 15	平成25年度通常総会開催
		6. 30	会報第71号発行
		9. 15	会報第72号発行
10. 5	第73回国際写真サロン展	9. 17	平成25年度第2回国内研修旅行 友の会設立20周年記念特別企画「出雲大社と足立美術館の旅3日間」参加者 17名
}		9. 19	
11. 4			
10. 11	併催「第30回日本の自然写真コンテスト入賞作品展」		
}			出雲大社と足立美術館の旅3日間
10. 24			
10. 12	第4回「まちかど美術館」		
}			
10. 14			
25.11. 10	「第13回鷹山賞児童作品展・第13回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展」	12. 4	公益財団法人鷹山宇一美術振興会に友の会助成金
}			
26. 1. 26			
25.12. 15	第14回「遊蝶記」の集い		
26. 3.31	美術館増築工事(応接室、ロビー拡張)竣工	25. 12. 15	会報第73号発行
		26. 3. 15	会報第74号発行

平成26年度(2014年度)

26. 4.19
 }
 6. 1

画業40年記念「黒井健 絵本原画の世界展」～
 物語との出会い



4. 19 開催式・テープカット風景

5. 1

お話の会『ゆりかご』(子供達の豊かな心を育むための読書活動を推進することを目的に平成15年結成、現在メンバー11名。)による「絵本の読み聞かせ」開催。七戸町近隣の幼稚園児・保育園児たち、総勢177名参加。



お話の会「ゆりかご」による読み聞かせ風景

26. 7.19
 }
 9.15

「日本近現代洋画への旅」～鷹山宇一作品と山岡コレクションを中心に～



7.19 開催式・テープカット風景

平成26年度(2014年度)

- 26.5. 9
 }
 5.16

第6回海外研修旅行 友の会設立20周年記念
 「 Санктペテルブルク・パリ美術紀行」 参加者
 22名



Санктペテルブルク エルミタージュ美術館



エルミタージュ劇場で「白鳥の湖」鑑賞

- 6.14 平成26年度通常総会開催



平成26年度通常総会議案審議風景

- 26.6.15 会報第75号発行

<p>26. 8.3</p> <p>9. 6 } 9. 8</p> <p>10.11 } 11. 3</p> <p>10.11 } 10.29</p> <p>10.25 } 10.26</p> <p>26.11. 9 } 27. 1. 4</p> <p>26.12.10</p> <p>12.21</p>	<p>七戸町立鷹山宇一記念美術館開館20周年記念式典開催&彫刻家吉野毅氏制作「請」の設置&除幕式</p>  <p>8. 3 20周年記念式典風景</p>  <p>8. 3 除幕式風景</p> <p>第2回「灯籠NIGHT」</p> <p>「第74回国際写真サロン展」</p> <p>併催 「第31回日本の自然写真コンテスト入賞作品」</p> <p>第5回「まちかど美術館」</p> <p>「第14回鷹山賞児童作品展／第14回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展」</p> <p>鷹山宇一 新画集刊行 「～静謐のレゾン・デートル～ 鷹山宇一の世界」</p>  <p>第15回「遊蝶記」の集い</p>		<p>26.9.15 会報第76号発行</p> <p>11.9 第2回友の会研修旅行「宮城県立美術館～生誕200年ミレー展～愛しきものたちへのまなざし」、 「仙台市博物館～樹木礼賛～」日本画に描かれた木と花の美」日帰り 参加者16名</p>  <p>仙台市博物館／樹木礼賛展</p>  <p>宮城県美術館／ミレー展</p> <p>12. 10 公益財団法人鷹山宇一記念美術振興会に助成金</p> <p>26.12.15 会報第77号発行(友の会20周年記念特集号) 友の会設立20周年記念事業として、新「鷹山宇一画集」を全会員に配付(会報第77号と同封)</p>
---	--	--	---

七戸町立「鷹山宇一記念美術館」&鷹山宇一記念美術館「友の会」編集
(写真提供:鷹山宇一記念美術館&友の会)

鷹山賞児童作品展を振り返って

鷹山賞児童作品展審査委員長
公益社団法人二科会会員・評議員
濱田 進

平成一三年の秋、「第一回鷹山賞児童作品展」の審査でこの地を訪れた時、新幹線も無く原野の中にポツンと建つ美術館でした。この様な場所に人が見学に来るのかと疑問で不安を抱きながら美術館に入りますと・・・館長引き入る「ひばり一座」の厚い歓迎を受け審査に望みました。

机の上に山と積まれた作品の多さに驚きスタッフの苦勞を見て取る事が出来ました。一点一点審査を進めると、生活と密着した、野良仕事、収穫、虫取り、魚取り等の作品がほとんどで、その内の半分が木版画で出品されていきました。関西では「彫刻刀が危険だ」と言って使用している所が少ないです。

小学生の低学年から中学生までの木版画作品の完成度の高さに驚かされました。

第五回展を前後にして木版画も次に点数を減らし、エッチング、紙版画等に変わって行きました。又、第五回展は私にとって忘れる事の出来ない回でワークショップの機会を得て「時計作り」で子供たちと直接

かかわる事が出来ました。ドシャ降りの中、即席の紙コップの聴診器で雨音でかき消される大銀杏の鼓動を聞きました。その辺りの落ち葉、木の実、枝等を拾って文字盤に貼り付け、時計作りをした事。美術館を離れる時子供たちが車の姿が見え無くなるまで手を振り送って頂いた事が思い出されます。

「鷹山賞児童作品展」も一〇年間の間に作品の傾向が物を写す作品から感性を大切に表現方法の作品へと変わって来ています。と同時に、この地の特色を次第に失っていく流れに一抹の不安を感じています。

第一回展で見た感動を壊かしく思う次第です。

第一〇回記念展では授賞式に出席



審査中の濱田進審査委員長



鷹山児童作品展審査風景

させて頂き、子供たちご家族と一緒に談話させて頂きこの地の人々の美術に対する関心の深さに敬服致しました。

鷹山賞児童作品展に入選した事でこれからの子供たちの生き方に役に立つてくれれば大変嬉しいです。

私事で申し訳ございませんが、美術館のご好意で一〇回を記念して「濱田 進展」を開催して頂き私の画曆に残す事が出来ました事を感謝申し上げます。

この年は新幹線が開通し、美術館が開館して一六年目。

美術館にとって基礎が確立した記念すべき年だと私は確信しています。

この美術館が企画した展覧会「安野光雅展」「手塚治虫展」「平山郁夫展」等が半年、一年遅れで関西の美術館、デパートの美術館等で開催さ

れています。

もう七戸の「ひばり一座」とは言っていられませんが、俳優座、文学座と肩を並べています。私が最初に抱いた疑問、原野に建つた不便な所が拭きされました。

今や七戸が芸術発信の起点に名実共に成っています。

京都、七戸はもう日帰りできる距離です。

第一三回展からの「鷹山賞児童作品展」は、青森県全域に募集を拡げ、一歩づつではあります前進しております。

鷹山宇一先生の精神は確かに子供たちに伝わり浸透しています。

次なる目標は、青森県から東北へ東北から全国へと広げて行けましたら大変嬉しいです。

感謝

濱田進先生 略歴

- 1948年 兵庫県生まれ
- 1974年 「第59回二科展」初入選
- 1978年 「第63回二科展」□-マ賞受賞
- 1979年 二科会会友推挙
- 1984年 「第69回二科展」会友賞受賞
- 1985年 大阪高島屋にて個展
- 1987年 二科会会員推挙
- 1990年 安井賞展出品 以降2回出品
- 1991年 「第76回二科展」会員努力賞受賞
- 2001年 「鷹山賞児童作品展」審査委員長
～現在
- 2010年 社団法人二科会評議員となる
- 2010年 「濱田進展」鷹山宇一記念美術館
- 2013年 「第97回二科展」
第1回東京都知事賞受賞

(写真提供：鷹山宇一記念美術館)

多事私論

美術館の現状を直視

開館二十周年記念を機に、当美術館の過去を省み、現在を見つめ、未来を考えることが必要である。

統計によると、近い将来、人口が半減するという。人口動態で自然増は期待できず、雇用の関係で地方から都会への人口流失が予想され、このような状況が確実に到来した場合、町へ納付する税が減少し、国からの交付金等も減額され、町の財政等は厳しくなることが予想される。

当然、当美術館の運営にも大きな影響が出てくることは火を見るよりも明らかである。

考え過ぎと
思う方もいる
かも知れない
が皮相的発想
から述べてい
るのではない。
現に入館者



七戸町立鷹山宇一記念美術館

数は、減少傾向が見られるからである。

これまで当美術館としては、格調高い美術作品の展示を通して来館者に感銘を与えたり、ワークショップで様々なものづくり体験講座を開設したりして「芸術文化の振興拠点」としての役割を担ってきた。本年度で入館者も四十五万人を超えた。しかし、多くの入館者は年二回の特別展が主である。

特別展は、他の美術館や画廊の所蔵作品を借り受けて実施している。

時代の進展に



特別展

より、「価値観」や「ものの見方・考え方」は年齢によって違い、特別展の企画内容によっては入館者層も異なる。高年齢層は、当美術館から足が遠のくだろうし、若年の方は、漫画やアニメに関心があると同時にファッションに目が行き、美術に関心がある人でもインターネットで画像を見ることが満足し、入館料を支払ってまで原画の観覧をする人は少なくなると思う。決して、若い方々を愚弄しているのではない。
今後、人口が減少し、加えて入館者が少なくなったら、収益を確保できず、特別展は開催できず当美術館の存続が難しくなる。
蛇足であるが、ある人が述べた言

葉を思い出す。

「メリハリのある展示会、人を呼び込める魅力ある展示会、そして経費の掛からない展示会にするとよい」と。空理空論の美辞麗句を並べ、非現実的なことを言うが、このことについて批判する前に、その人が当美術館についての認識が足りなかつたのは、当方にも情報を伝えていなかつた責任があると考えるべきである。



再現したアトリエ

改めて問う 美術館の役割

美術館の役割を問うこと自体不遜かも知れないが、鷹山宇一画伯を冠としていたたく当美術館としては、生涯を通して究めていった幻想的絵画を制作した画伯の理解に繋がる情報発信をする必要がある。その方法には、作品の常設展、信念を貫いて生き抜いた生き方や画業・画風の紹介等がある。

しかし、大切なことは、画伯の想いである「美術に関心を示す人が一人でも多く育つ」ことの願いを叶えるよう努めることであり、そのことを忘れてはならない。それ故に、アートに関するワークショップを位置づけ、子どもから大人まで生涯学習の観点から実施することが大切である。

具体的には、幼児にはまちかど美術館を、小中学生には鷹山賞児童作品展を、そして高校生以上には、パステルアートや七宝焼きなどの絵画・美術工芸教室等を実施しているが、今後、特に意を用いなければならぬのは、高校生を対象とする取組を学校側との理解・協力を得ることである。



オータムフェスタでの紹介

喫緊の課題としては、人材育成として、地域で活動する美術作家の作品を展示するコミュニティギャラリーの開設である。これに対して美術館の信頼・評価が下がるという考えもある。しかし、多くの方々の支援無くしてこれからの美術館の存続は困難である。このことを心に刻んでおくことが肝心である。

まさに、「非学者論に負けず」の例えもある。

私としては、地域とともに歩み、信頼と親しみのある「美術館」としての存在を標榜すべきだと考えている。

(文責 館長 船山 義郎)

幻想画家

鷹山宇一の足跡を探訪

当美術館は、鷹山宇一画伯を顕彰することを目的の一つとして開設されたものであり、開館二十周年記念を機に、画伯の足跡をきちんと捉えていることは大切なことであり、確認の意味で書き記す。

明治四十一年

十二月十日、父鷹山胤三と母ふじ乃の長男として七戸町で誕生。

大正四年 七歳

七戸尋常高等小学校入学。四年生の時、担任の歌人青山哀囚の文学的薰陶を受け、芸術への関心が高まる。

大正十一年 十四歳

旧制青森中学校（現在の県立青森高等学校）入学。この頃、棟方志功と出会う。

大正十二年 十五歳

棟方志功、松木満史らの青光画社に加わり、絵の制作を本格的に開始。

昭和二年 十九歳

旧制青森中学校卒業と同時に上京、川端画学校に入学しデッサンを学ぶ。九月日本美術学校洋画科へ編入。

昭和五年 二十二歳

日本美術学校卒業。第十七回二科展で木版画二点が初入賞。
昭和六年 二十三歳

旧制青森中学校三十周年記念メダル図案を作成。

昭和八年 二十五歳

二科会の若手前衛作家による「新油絵」の創立に参加。

昭和十三年 三十歳

二科会出品の若手前衛作家により「絶対対象派協会」を結成。また、藤田嗣治ら二科会の前衛作家により設立された「九室会」に参加。

昭和十八年 三十五歳

第二次世界大戦に海軍航空隊員として招集。

昭和二十年 三十七歳

二科会再建に際して東郷青児の呼びかけにより会員として復帰。

昭和二十一年 三十八歳

七戸町の明照保育園にて個展を開催。

昭和二十二年 三十九歳

この年始まった教科書検定制により民間出版社の小中学校教科書の挿絵を手がける。

昭和二十三年 四十歳

武井増子と結婚。文京区本郷に居を構える。鷹山宇一と名久井十九三作品展を八戸商工会議所で開催。

昭和二十四年 四十一歳

鷹山宇一・斉藤清創作版画二人展を資生堂ギャラリーで開催。

昭和二十五年 四十二歳

長女ひばり誕生。第三十五回二科展に代表作「荒野の歌」を出品。本展で会員努力賞を受賞。

昭和二十八年 四十五歳

七戸町の保健所二階で個展を開催。この頃、日本経済新聞、朝日新聞、書籍等の挿絵を手がける。

昭和三十六年 五十三歳

二科会は理事制を敷き、東郷青児理事長のもと、理事に就任。

昭和三十八年 五十五歳

七戸町立城南小学校校章図案を作成。

昭和三十九年 五十六歳

青森県褒賞を受賞。

昭和四十年 五十七歳

二科五十周年記念回顧展に「朝明けの歌」を出品。神奈川県立近代美術館が「荒野の歌」を買い上げ保存。

昭和四十一年 五十八歳

第五十一回二科展で青児賞を受賞。七戸町立七戸幼稚園園章図案を作成。

昭和四十二年 五十九歳

第五十二回二科展で総理大臣賞を受賞。

昭和四十三年 六十歳

東奥日報八戸支社落成記念鷹山宇一個展を開催。

昭和四十五年 六十二歳

芥川賞受賞作家清岡卓行書「アカシヤの大連」（講談社発行）の表紙装画を手がける。

昭和五十四年 七十一歳

社団法人二科会として発足し、吉井淳二理事長のもと、理事に就任
昭和五十六年 七十三歳

「青光社の五人展」に出品（出品作家棟方志功、松木満史、下沢木鉢郎、古藤正雄、鷹山宇一）青森市民美術展示館にて。

平成二年 八十二歳

七戸町名誉町民の称号を受ける。

平成六年 八十六歳

八月一日 七戸町立鷹山宇一記念美術館開館。名誉館長に就任。開館特別展「鷹山宇一・秋山庄太郎二人展」を開催。

平成七年 八十七歳

「青森県近代版画のあゆみ展」に木版画処女作「編み物をする女」を出品。青森県立美術館にて。

平成九年 八十九歳

開館三周年記念「鷹山宇一の世界展」心象、その原点」を開催。

「鷹山宇一画集」刊行。第二十六回デール東北賞を受賞。

平成十年 九十歳

「鷹山宇一卒寿記念展」を東京国際美術館にて開催。第五十一回東奥賞特別賞を受賞。

平成十一年

開館五周年記念「鷹山宇一の素描展」静謐のレゾン・デートル」幻想的な女性像「鈴木コレクションの世界」に鷹山宇一制作の油彩画三点が展示。八戸市立美術館にて。十月二十五日永眠。十二月十日「町民葬」七戸名誉町民故鷹山宇一氏を偲んで」が執り行われる。

★わーくしよつぷ のてきごと★よつぷ

（これまでのワークシヨップの活動を報告いたします）

▼食品サンプルづくり

9月13日（土）
JAF会員様を対象に、食品サンプル作りを開催致しました。溶かした口ウを使用するためやけどに注意しながらの体験です。最初は形にならなかつた物も最後にはちゃんとレタスやお寿司の形になり、お持ち帰りの際は本当に食べ物のお土産そっくりでした。



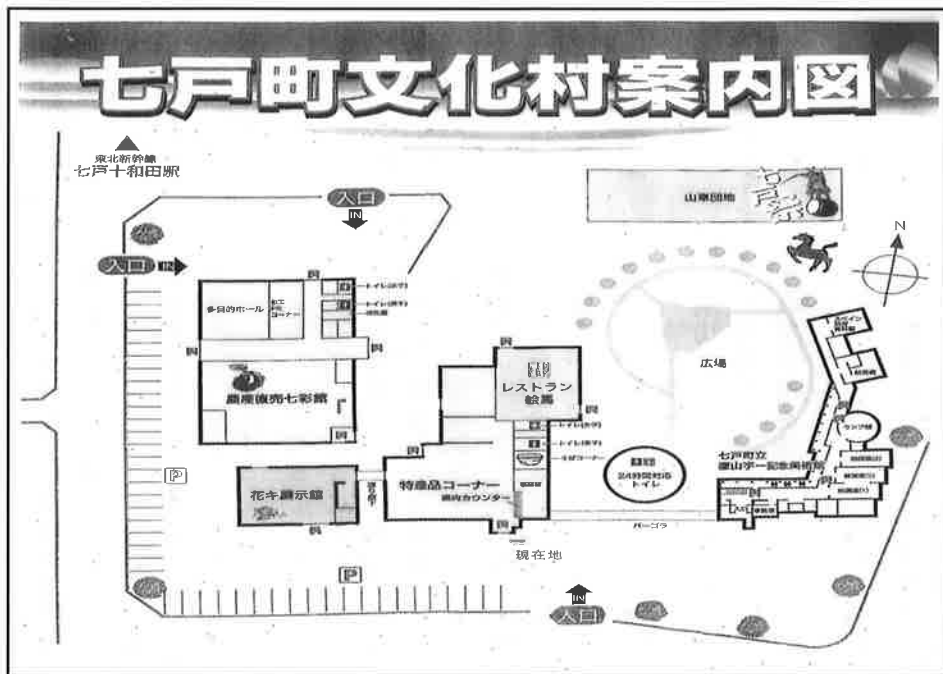
▼キャンドルづくり

10月18日（土）
天間東小学校様を対象にオリジナルキャンドル作りを開催致しました。様々な色の四角いろそくを紙コップの中に敷き詰めて作ります。可愛らしいキューブのろうそくを見て、始める前から「これを使いたい」とイメージを膨らましていました。勿論楽しく作業を進めることが出来、皆さん大小1つずつ作り大変満足している様子でした。



職場体験学習

11月7日に七戸町立七戸中学校から職場体験として、3名の生徒さんが美術館を訪れました。
翌日11月8日が第14回鷹山児童作品展授賞式だったため、3人にはその準備のお手伝いをメインに体験して頂きました。
学芸員に鷹山宇一先生の説明を受けた後、授賞式の会場設置など、普段の美術館業務とは少し違った、しかしとても大切な仕事をしていただきました。
授賞式準備のため、人手は多い方がよく、また力仕事も随所にあつたこともあり、とても大変だったとは思いますが、スムーズに作業を進めることができ、美術館としても、3人の手伝いは大変力強くありました。また、力仕事でもちよつとして仕事にも丁寧で素早く対応していました。
美術に関心のある生徒達だったので、どの業務も真剣に取り組んでいました。また、普段見ることのない、美術館の裏方の仕事に触れて少し驚いている様子も見受けられました。
この体験が、中学生の3人にとつて実りのあつたものと期待しております。



七戸町立鷹山宇一記念美術館は、七戸町文化村にあります。詳しい案内図です。

楽しく満足感のある ワークショップ

当美術館のワークショップは、幼児から大人まで幅広い世代を対象とし、生涯学習の観点から余暇の善利用を基本としながらも、芸術文化に浴する人材を発掘・育成することを目的としている。

それ故、参加者のニーズに応じたメニュー選択ができるよう準備し、時間や難易度を考慮し、初めての方でも成功体験を大切に、楽しさや達成感、満足感を味わえるよう配慮している。確かに質的に高い体験学習ほど望ましいが、興味関心を喚起することが大前提であり、「また来たい。続けてやりたい」という気持ちを抱かせることを優先すべきだと考えている。

ワークショップは、基本的に二つの部門から構成されている。一つは、「美術館あそびくらぶ」として、次のような体験活動を実施している。

① デッサン、パステル、水彩を主とする絵画教室



パステルアート

② 単色や多色、スクリーン等版画

教室



木版画

③ 銀細工や七宝焼き、キャンドル等の工芸教室

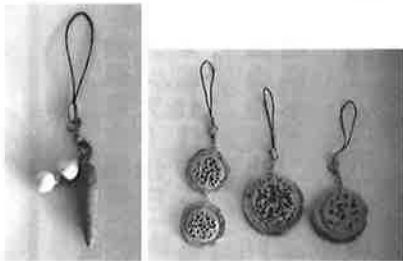


銀細工

もう一つは「アートでものづくり」体験活動である。

この活動は、短時間で誰でもが挑戦できる簡単なものである。

① ご当地ストラップづくり



にんにく

南部煎餅

② アルバムづくり



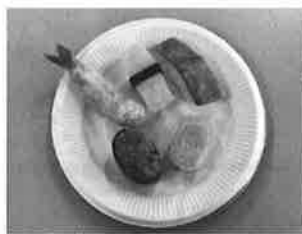
思い出のアルバム

③ 万華鏡づくり



私の万華鏡

④ 食品サンプルづくり



寿司とエビ天

これまでは、個人を対象にしたものであるが、小集団での体験活動も実施している。これは、主として出前講座として展開している。

また、地域の行事に合わせて町民を巻き込んだ取組を実施している。特に青年層の惜しみない協力があり、誠に有り難く、心強く思っている。これからも創意工夫を凝らし、参加者の希望に添えるよう教材開発に努めて行き

たい。

① 巨大絵馬づくり



願い叶う絵馬

② まちかど美術館



力作揃いの写真

③ 灯籠 NIGHT



幻想的な灯籠

美術館日誌

◇ 9月 ◇

1日(月) WS 灯籠づくり(城南児童館)西野教育普及員出張5日(金)7日(日) WS 灯籠 NIGHT (七戸川)西野教育普及員・千葉教育普及員出張8日(月)9日(火)画集撮影(美術館2F)13日(土) WS 食品サンプルをつくろう(美術館2F)。評議員会(美術館2F)14日(日)七彩会油画教室開催(美術館2F)20日(土)まちなか大芸術祭(中央ビル)船山館長出席22日(月)しちのへオータムフェスタ打ち合わせ会議(七戸庁舎3F)船山館長出席

◇ 10月 ◇

1日(水)鷹山賞審査(七戸庁舎3F)濱田進先生来館2日(木)鷹山賞全体審査(美術館2F)5日(日)七彩会油画教室開催(2F)6日(月) WS ダンボールハウスをつくろう(城南児童館)西野教育普及員出張9日(木) WS ダンボールハウスをつくろう(城北児童館)西野教育普及員出張11日(土)国際写真サロン展開催12日(日)ギターリサイタル(美術館展示室1・2室)18日(土) WS キューブキャンダルをつくろう19日(日)ぐれっとバスツアー開催(船山館長・西野教育普及員出張)25日(土)26日(日)まちなかど美術館開催(七戸中央商店街)。オータムフェスタ

◇ 11月 ◇

1日(土)十和田氏現代美術館田中忠三郎展オープンングセレモニー(船山館長出席)7日(金)職場体験(七戸中生徒3名来館)8日(土)鷹山賞児童作品展授賞式9日(日)七彩会

油画教室開催(美術館2F)16日(日)ぐれっとバスツアー18日(火)七戸小2・4学年見学のため来館19日(水)水喰小3・4学年見学のため来館(11名)21日(金)城北保育園来館25日(火)観光協会役員会(七戸庁舎)船山館長出席26日(水)城南小2・3・5学年見学のため来館

10/2(木)鷹山賞全体審査 濱田先生、小又町長、白石議長。



10/18(土) WS キューブキャンダルをつくろう 天間東小1学年の皆さん(20名)がキャンダルを制作。



11/26日(水)城南小学校生徒さん見学のため来館館長の説明を聞き、鑑賞を楽しみました。



10/25(土)・26(日)オータムフェスタ 七戸町中央公園屋内スポーツセンターにて、美術館の展示をしました。主に、これまでのワークショップ(せんべいストラップ、七宝焼、食品サンプル等)の紹介です。



10/19(日)ぐれっとバスツアー開催

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪〜3館連携企画〜♪♪♪



鷹山宇一記念美術館、十和田市現代美術館、寺山修司記念館の3館連携イベント、ぐれっとバスツアーを行いました。バスは七戸十和田駅から出発し、3館それぞれガイドつきで貴重な解説を聞きながらの鑑賞を楽しみました。昼食には、十和田市の特産物がたっぷり入ったお弁当をおいしくいただきました。来年もお楽しみに!!

深まる秋の一日、国内研修旅行
「宮城県美術館・生誕200年ミレー
展&仙台市博物館・特別展 樹木礼
賛」の紀行文をお寄せ頂いたのでま
したのでご紹介致します。

「樹木礼賛展」
「ミレー展」に参加して

七戸町 田中洋子

杜の都・仙台での研修。駅からタク
シーで仙台市博物館へ。特別展「樹木
礼賛―日本絵画に描かれた木と花の
美―」を鑑賞。襖、屏風、掛け軸、絵
巻物、浮世絵などに描かれた作品六
〇点余りが展示されていました。最終
日だったせいか若干人が多かったよう
です。

まず、目についたのが江戸時代に描
かれた円山応挙筆の国宝「雪松図屏
風」です。松の写実的な描写と墨の濃
淡によって表現された画面に感心し、
さらに紙の白さで雪を表すという技
法も味わい深く、存在感があり、さす
が国宝だと思いました。興味深かった
のは、仙台市指定文化財「榴ヶ岡花見
図屏風」です。江戸時代の作品ですが、
花見の楽しそうな様子が色鮮やかに
表現されていました。多くの作品を通

して日本人は昔から樹木や花を愛し、
癒やされるだけでなく、樹木を信仰の
対象とし、心のよりどころとして絵を
描いてきたんだなと思いました。

次は宮城県美術館で開催されてい
る生誕二百年を記念する「ミレー展―
愛しきものたちへのまなざし―」へタク
シーで移動。ミレーの作品群は、プロロ
グ・形成期、自画像・肖像画、家庭・
生活、大地・自然といろいろな分野に
分けられ、見やすく構成されており、
八〇点余り展示されていました。ミレ
ーは一九世紀初頭、フランスの農家に
生まれたが、厳しい農民の労働や生活
の様子を愛情こめて、ありのままに描
写し農民画を生み出したと思います。
ミレーは人物を好んで描き、家族や近
しい人、大地や自然、動物などにも愛
情を注いでいたことが画面から良く伝
わってきます。また素朴な画面に重々
しい色彩ですが敬虔な信仰心があふ
れていて、誠実さを感じます。「落ち穂



仙台市博物館前にて



宮城県美術館にて

拾い、夏「種をまく人」は特に有名で
す。

樹木の日本画とミレーの絵画は、題
材、画風は違うけれど崇高さと自然
との一体感があふれた作品に心が満
たされました。芸術の秋にふさわしく
楽しく充実した一日でした。

七戸町 工藤喜代子

今年度第二回目の研修旅行に参加
させて頂きました。初めに杜の都・
仙台の木々に囲まれた仙台市博物館
で開催されている「樹木礼賛展」を鑑
賞。平安・鎌倉・桃山・江戸時代と襖、
屏風、掛け軸、絵巻物、浮世絵などに
樹木を描いた様々な絵画を通して、日
本人が樹木をどのようにとらえ、表現
してきたのが紹介されていました。
その中で一番気に入った作品は、大画
面絵画で円山応挙筆の国宝「雪松図

屏風」でした。紙の白さで雪を表してい
る技巧がすばらしく絵心の無い私でも
関心を持って見入ってしまいました。そ
して、何より力強い生命力を感じさせ
るような松の描写から元気をもらえ
たという事が、一番でした。

次に研修の案内に、「ミレー展」とい
う文字を見つけ、心ときめく思いがし、
研修の日を楽しみに待つ日々を過ご
すことができた宮城県美術館へ。正面
入り口ではサザンカの白い花と、日本
中の子ども達に愛されている絵本「大
きなかぶ」の作家、そして日本を代表
する彫刻家「佐藤忠良」氏の作品「若い
人」のブロンズ像に迎えられる、生誕二
百年を記念してのミレー展へ。学生時代、
美術の教科書に出てきた作品が目
前に。どの作品も家族や近い人たち、
大地と自然、そこに根ざして生きる人
々や動物たちなど、ミレーが愛情と共
感を寄せたものたちをモチーフとし、
暖かさや尊敬を備えた作品を鑑賞す
ることができました。もちろん、楽し
みにしていた代表作「落ち穂拾い、夏」
も！思っていたより小さなキャンバスに
描かれていましたが、広大な農地を想
像させられるすばらしい作品でした。
他にも大好きになった作品「子供たち
に食事を与える女（ついばみ）」は九人
の子ども達に囲まれ小さな農村で庭
に菜園をつくるなどし、家族を大切に
しながら創作に打ち込んでいたとい
うミレーの良き父親ぶりを感ずることが
でき、とても心が温まる思いがしまし
た。元気をもらい、心豊かにしてもらっ
た今回の研修旅行はすばらしかったです。
企画、準備をしてくださった友の
会事務局の皆さんに感謝いたします。

鷹山宇一記念美術館開館20周年記念彫像「請」

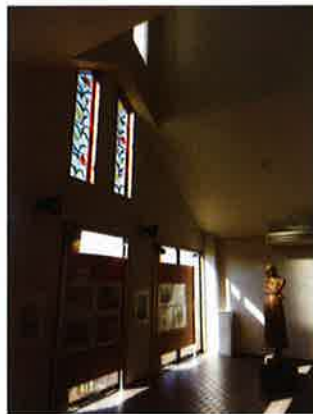


彫刻家吉野毅氏制作

材質 1ブロンズ
高さ 478cm
幅 45cm
奥行 30cm
台座(高さ) 10cm
(写真提供：鷹山宇一記念美術館)



同 12時01分



同 11時57分



11月23日11時55分

秒単位で変化するステンドグラスの透過の中に佇み
『幸を願い望む彫像「請」』



同 12時01分



同 12時01分



撮影者・照井 (鷹山宇一記念美術館の許可を得て撮影) 会報担当：照井壽一

鷹山宇一記念美術館開館20周年記念事業

『鷹山宇一画集』刊行!!

～ 静謐のレゾン・デートル ～



(右図は、新画集のイメージ写真です。)

この度、待望の新「鷹山宇一画集」が刊行されました。長らく品切となっておりました「鷹山宇一画集」が、七戸町立鷹山宇一記念美術館開館二十周年記念事業として、新たに発見・収集した作品・論文等を加えて大幅に編集し直した画集として刊行されました。

平成二六年度友の会会員の皆様には友の会設立二十周年記念事業としてお届けいたします。また、今後は左記のように有償販売となりますが、会員以外の方々にもご紹介頂きますよう、ご案内申し上げます。

鷹山宇一画集
～静謐のレゾン・デートル～

- ◆販売価格 2,000円 + 消費税
- ◆送料 1,800円 + 消費税
- ◆申込先 美術館
- ◆収録作品数 202点
- ◆録音作品数 286点
- ◆モノクロ作品数 44変形

友の会会員登録の更新と
新規会員登録入会お誘いのお願ひ

友の会会員の更新及び新規入会の手続きを行って下さいました会員の皆様、誠に有り難う御座いました。新しい年も鷹山宇一記念美術館の応援を宜しくお願い申し上げます。平成27年も会員の皆様方に芸術・文化に親しんで頂けるよう研修旅行等を企画し、微力ながら地域文化の発展に寄与していく所存でございます。

尚、平成27年度の更新及び新規入会手続きは、美術館窓口と同封の郵便振替により随時行っておりますので会員各位の特段のご協力をお願い致します。

○友の会の事業内容

- ①県内外美術館研修視察旅行(年2～3回)
- ②海外美術館研修旅行
- ③美術館作品購入基金への協力
- ④鷹山宇一記念美術館ボランティア協力
- ⑤会報の発行
- ⑥その他(美術講演会の開催等)

○一般会員

- 年会費 3千円
- 特典 ①無料入館券3枚、会員証提示により入館料2割引

○特別会員

- 年会費 1万円
- 特典 (個人・法人) ①会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者1名まで無料入館

○賛助会員

- 年会費 2万円
- 特典 (個人・法人) ①会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者3名まで無料入館

◇詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。

★20周年記念
会報合本発行

第38号から77号までを一冊に合本して、有料頒布致します。

- ・合本一冊 一〇〇〇円
- ・送料一冊 二〇〇円
- ・申込期限 27年1月31日
- ・発行予定 27年2月1日
- ・申込先 美術館

編集後記

★皆様のご協力を頂き20周年記念会報第77号完成。感謝。

友の会設立20周年に当たり多くの方々からお寄せ頂いたお祝いと励ましのメッセージを糧に、今後も鷹山宇一記念美術館の継続と発展のために会報を通じて地域文化を発信していきたいと思ひます。

☆会員の皆様、よいお年をお迎え下さい。(照井)